【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和7年2月10日(2025.2.10)

【公開番号】特開2021-56211(P2021-56211A)
【公開日】令和3年4月8日(2021.4.8)
【年通号数】公開・登録公報2021-017
【出願番号】特願2020-142239(P2020-142239)
【国際特許分類】
Ｇ０４Ｂ 13/02(2006.01)
Ｇ０４Ｂ 15/14(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０４Ｂ 13/02 Ｚ
Ｇ０４Ｂ 15/14 Ｂ

【誤訳訂正書】
【提出日】令和7年1月31日(2025.1.31)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
部材（２０）が第１開口（１）へ打ち込まれる際に前記部材を受けることが意図される前記第１開口を含む、時計部品（１００）であって、前記時計部品は、前記第１開口に中心を取る軸（Ａ１；１Ａ１）と、前記部材を受けることが意図される少なくとも２つの構造（１０；１１０）とを含み、前記少なくとも２つの構造は、
前記部材と接触することが意図され、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、受け要素（４ｂ；１４ｂ）と
前記受け要素の第１端部から、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第１接続要素（４ｃ；１４ｃ）と、
前記受け要素の第２端部から、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第２接続要素（４ｄ；１４ｄ）と、
前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第１弾性変形可能要素（４ａ；１４ａ）と、
前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第２弾性変形可能要素（４ａ’；１４ａ’）と、
を含み、
前記第１接続要素は、前記受け要素の前記第１端部を前記第１弾性変形可能要素へ機械的に接続し、前記第２接続要素は、前記受け要素の前記第２端部を前記第２弾性変形可能要素へ機械的に接続し、
同一の弾性変形可能要素（４ａ；１４ａ）が、２つの隣接する受け構造の前記第１弾性変形可能要素と前記第２弾性変形可能要素を構成する、
時計部品。
【請求項２】
前記第１弾性変形可能要素及びまたは前記第２弾性変形可能要素は、その一端のみに組み込まれるビーム構造を有する、
請求項１に記載の時計部品。
【請求項３】

部材（２０）が第１開口（１）へ打ち込まれる際に前記部材を受けることが意図される前記第１開口を含む、時計部品（１００）であって、前記時計部品は、前記第１開口に中心を取る軸（Ａ１；１Ａ１）と、前記部材を受けることが意図される少なくとも２つの構造（１０；１１０）とを含み、前記少なくとも２つの構造は、
前記部材と接触することが意図され、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、受け要素（４ｂ；１４ｂ）と
前記受け要素の第１端部から、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第１接続要素（４ｃ；１４ｃ）と、
前記受け要素の第２端部から、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第２接続要素（４ｄ；１４ｄ）と、
前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第１弾性変形可能要素（４ａ；１４ａ）と、
前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第２弾性変形可能要素（４ａ’；１４ａ’）と、
を含み、
前記第１接続要素は、前記受け要素の前記第１端部を前記第１弾性変形可能要素へ機械的に接続し、前記第２接続要素は、前記受け要素の前記第２端部を前記第２弾性変形可能要素へ機械的に接続し、
前記第１弾性変形可能要素及びまたは前記第２弾性変形可能要素は、その一端のみに組み込まれるビーム構造を有する、
時計部品。
【請求項４】
前記部材を受けることが意図される、２つまたは３つまたは４つの構造（１０；１１０）を含む、及びまたは前記受け構造は、Ｎ回の回転対称性を有する組立体を構成し、Ｎ＝２またはＮ＝３またはＮ＝４である、
請求項１から３のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項５】
前記部材（２０）が前記第１開口に案内されるとき、前記第１弾性変形可能要素及び前記第２弾性変形可能要素は、主として曲がって付勢される、及びまたは前記第１接続要素及び前記第２接続要素は、主として圧縮により付勢される、及びまたは前記受け要素は主として曲がって付勢される、
請求項１から４のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項６】
前記軸（Ａ１、１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延び、前記第１開口内に開口する第２開口（２、２’、２”；１２、１２’、１２”、１２＊）を含み、各第２開口は、２つの隣接する受け構造の２つの受け要素を直角放射状に画定する、及びまたは各第２開口は、２つの隣接する受け構造の第２接続要素から第１接続要素を分離する、
請求項１から５のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項７】
前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる第１部分（３ａ；１１３ａ）と、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる第２部分（３ｂ；１１３ｂ）と、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる第３部分（３ｃ；２１３ａ、２１３ｂ）とをそれぞれ含む、第３開口（３；１３ａ、１３ｂ）を含む、
請求項１から６のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項８】
前記第１部分（３ａ；１３ａ）は、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して半径方向に前記第１弾性変形可能要素（４ａ、１４ａ）を画定する、及びまたは前記第２部分（３ｂ；１３ｂ）は、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して半径方向に前記受け要素を画定する、及びまたは前記第３部分（３ｃ；１３ｃ）は、前記軸（Ａ１；１Ａ１）に対して直角放射状に前記

第２接続要素を画定する、
請求項７に記載の時計部品。
【請求項９】
第１直径（Ｄ１）を有する第１円筒は、前記第１開口に内接され、前記第２開口は、第２直径（Ｄ２）を有する第２円筒に内接され、前記第２直径の値は、前記第１直径の値の１．１倍から３倍の間である、
請求項６、または、請求項６を引用する請求項７から８のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項１０】
前記受け要素は、前記部材と接触することが意図される少なくとも１つの表面または１つの線状軸受区域を含む、
請求項１から９のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項１１】
電鋳加工またはＬＩＧＡ型加工またはフォトリソグラフィ及び強腐食加工により製造される、及びまたは脆弱素材製またはＮｉまたはＮｉＰまたはＳｉまたはダイヤモンドまたはクオーツ製である、
請求項１から１０のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項１２】
その外径（Ｄ６）が２ｍｍより小さいまたは１．５ｍｍより小さいまたは１．２ｍｍより小さいハブ（６；１６）を含み、前記受け構造は、前記ハブへ、前記ハブの内部へ機械的に接続される、
請求項１から１１のいずれか一項に記載の時計部品。
【請求項１３】
請求項１から１２のいずれか一項に記載の時計部品（１００）と部材（２０）とを含み、前記部材は前記第１開口内に搭載されまたは打ち込まれる、組立体（２００）。
【請求項１４】
請求項１から１２のいずれか一項に記載の時計部品または請求項１３に記載の組立体を含む、時計ムーブメント（３００）。
【請求項１５】
請求項１４に記載のムーブメントまたは請求項１３に記載の組立体または請求項１から１２のいずれか一項に記載の時計部品を含む、時計（４００）。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２５】
各受け構造は、
－　部材と接触することが意図され、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、受け要素４ｂと、
－　受け要素の第１端部から、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第１接続要素４ｃと、
－　受け要素の第２端部から、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる、第２接続要素４ｄと、
－　軸Ａ１に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第１弾性変形可能要素４ａと、
－　軸Ａ１に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる、第２弾性変形可能要素４ａ’と、
を備える。
【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３２】
部品は、有利には、少なくとも軸Ａ１に対して実質的に半径方向に延び、第１開口に対して開く、第２開口２、２’、２”を含む。各第２開口はまた、２つの隣接する受け構造の２つの受け要素を半径方向に制限し、及びまたは各第２開口は、第１接続要素を２つの隣接する受け構造の第２接続要素から分離する。第２開口２は、例えば、第１開口１から軸Ａ１に対して半径方向に延びるスロットである。（軸Ａ１に対して半径方向に測定される）スロットの深さは、例えば、（軸Ａ１に直角放射状に測定される）スロットの幅の２倍より大きい。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３４】
（軸Ａ１に対して直角放射状に測定される）開口の幅ｄは、好ましくは、２×ｄ＝α×Ｄ１の方程式で与えられ、ここでαは０．１７以上０．７以下である。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３６】
第３開口は、主として、第１直径Ｄ３ａの高さで軸Ａ１に対して直角放射状にまたは実質的に直角放射状に延びる第１開口部３ａと、第２直径Ｄ３ｂの高さで軸Ａ１に対して直角放射状にまたは実質的に直角放射状に延びる第２開口部３ｂと、第１部分から第２部分へ、特に第１部分の一端から第２部分の一端へ、軸Ａ１に対して半径方向にまたは実質的に半径方向に延びる第３開口部３ｃと、を含む。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４２】
部品は、有利には、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる第１部分３ａと、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に直角放射状に延びる第２部分３ｂと、軸Ａ１に対して少なくとも実質的に半径方向に延びる第３部分３ｃと、をそれぞれ含む、第３開口３を含む。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４３】
第１部分３ａは、好ましくは、軸Ａ１に対して半径方向に弾性変形可能要素４ａを規する、及びまたは第２部分３ｂは、好ましくは、軸Ａ１に対して半径方向に、受け要素４ｂ”を画定し、及びまたは第３部分３ｃは、好ましくは、軸Ａ１に対して直角放射状に接続

要素４ｄ”を画定する。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４７】
第３部分４ｂは、第２部分４ｃの端部から、軸Ａ１に対して直角放射状にまたは実質的に直角放射状に延びる。第３部分４ｂは、例えば、第３開口３’の部分３ｂ’と開口１とにより画定される。第３部分４ｂは、例えば、上述の受け要素４ｂを構成する。当該第３部分４ｂの高さでのアーム４の断面は、部分３ｂの直径Ｄ３ｂとＤ１と（半径方向に測定される）幅Ｌとにより画定される。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５０】
部材２０を組み付ける際、受け要素４ｂ、４ｂ’及び４ｂ”は、軸Ａ１に対して移動されるように適合される。このため、部材２０のシャフトは、その形が、特にその直径Ｄ２０ａが、第１開口１の形、特に直径Ｄ１、よりも大きい、部分２０ａを含む。このため、開口１への部分２０ａの挿入は、軸Ａ１に対する軸受区域の移動を引き起こす。より具体的には、第２開口２、２’、２”の拡大と組み合わされた弾性アーム４、４’、４”の屈曲は、有利には、残りの時計部品１００の変形なくして、特にハブ６の変形なくして、軸Ａ１に対する半径及び直角放射状方向への受け要素の移動を引き起こす。
【誤訳訂正１０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５５】
図４ｂは、シャフト２０が開口１に案内されるにつれ直径Ｄ２０から直径Ｄ２０ａに拡大することにより、時計部品２０の一部が、受け要素４ｂ、４ｂ”、及び４ｂ”を軸Ａ１に対して半径方向及び直角放射状方向に移動させるために受け要素４ｂ、４ｂ”、及び４ｂ”と接触する、中間組立段階を示す。白いクロスハッチングは、３つの第２開口２、２’、２”の拡大により、また３つの第１アーム４、４’、４”の屈曲によりもたらされる応力の水準を表現する。ここで、ハブ６内の応力の水準は、開口２、２’、２”及びアーム４、４’、４”の弾性変形により影響を受けないことを注記する。
【誤訳訂正１１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７１】
各受け構造１１０は、ハブ１６から第１開口１１の軸１Ａ１に対して実質的に半径方向に延びる第２アーム１５に組み込まれる第１部分１４ａを含む、第１弾性アーム１４を含む。ここで、組み込まれるとは、それぞれが軸１Ａ１に対して少なくとも部分的に直角放射状に延びる２つの第３開口１３ａ、１３ｂ’により画定される。より具体的には、組み込まれるとは、ここでは、それぞれ軸１Ａ１に対して直角放射状に延びる開口１３ａ、１３ｂ’のそれぞれの部分１１３ａ、１１３ｂ’により画定される。第１部分１４ａの高さで

のアーム１４の断面は、直径Ｄ１３ａ、Ｄ１３ｂと（軸１Ａ１に対して半径方向に計測される）部分１１３ａ、１１３ｂ’の幅Ｌにより画定される。更に、第３開口１３ｂ’の部分１１３ｂ’及び２１３ｂ’は、第１及び第２開口１１及び１２’と共に、アーム１４の部分１４ｂ、１４ｃ、及び１４ｄの画定を可能とする。このためアーム１４は、曲がったアーム形状を有する。

【誤訳訂正１２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７５】
実施形態または変形実施形態にかかわらず、時計部品は、好ましくは、軸に対して少なくとも実質的に半径方向に延び、第１開口に対して開口する、第２開口を含み、各第２開口は、２つの隣接する受け構造の２つの受け要素を直角放射状に制限する、及びまたは各第２開口は、第１接続要素を２つの隣接する受け構造の第２接続要素から分離する。

【誤訳訂正１３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７８】
実施形態または変形実施形態にかかわらず、時計部品は、好ましくは、少なくとも軸に対して実質的に直角放射状に延びる第１部分、少なくとも軸に対して実質的に直角放射状に延びる第２部分、及び少なくとも軸に対して実質的に半径方向に延びる第３部分、をそれぞれ含む第３開口を含む。

【誤訳訂正１４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７９】
実施形態または変形実施形態にかかわらず、第１部分は、好ましくは、弾性変形可能要素を軸に対して半径方向に画定する、及びまたは第２部分は、好ましくは、受け要素を軸に対して半径方向に画定する、及びまたは第３部分は、好ましくは、接続要素を軸に対して直角放射状に画定する。